

「させぼ温州」の幼木におけるかいよう病の発生状況					
[要約] 「させぼ温州」幼木は「青島温州」幼木に比べ、 <u>かいよう病</u> の発生が多くみられる。					
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物病害	対象	果樹類	指導
平成13年度 長崎県果樹試験場業務報告					

[背景・ねらい]

させぼ温州の病害虫の発生特性および窒素施肥量の違いによる病害虫発生の差について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 果樹試験場内のさせぼ温州3年生は青島温州3年生に比べ、かいよう病の発生が多い。また、させぼ温州では窒素施肥標準量区～6割増区のいずれにおいてもかいよう病の発生が多い（表1）。
2. そうか病、ミカンハダニ、ミカンハモグリガ、アブラムシ類の発生についてはさせぼ温州と青島温州の間で顕著な発生の差は認められない（データ省略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 「させぼ温州」は、幼木の時期においてかいよう病の発生が多い圃場がみられるため、かいよう病の発生に充分注意する。

表1 「させば温州」のかいよう病の発生状況

区	9月13日		11月26日	
	被害葉率 (%)	被害度	被害葉率 (%)	被害度
させば温州3年生窒素標準区	16.0	4.4	24.5	5.1
させば温州3年生窒素3割増肥区	10.5	2.8	30.5	7.5
させば温州3年生窒素6割増肥区	10.5	2.9	30.0	6.4
青島温州3年生窒素標準区	5.0	1.0	5.5	0.9

[その他]

研究課題名：させば温州の早期樹冠拡大と高品質果安定多収技術

予算区分：県単

研究期間：平成13年度（平成11～15年）

研究担当者：小嶺正敬、中村吉秀、早田栄一郎